

氏名(本籍)	篠原秀一 (神奈川県)
学位の種類	理学博士
学位記番号	博乙第678号
学位授与年月日	平成3年3月25日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	A Geographical Study of the Modern Fisheries' Structure : the Fisheries' Space of Choshi. (近代漁業の空間構造に関する地理学的研究——銚子における漁業空間)
主査	筑波大学教授 理学博士 山本正三
副査	筑波大学教授 理学博士 奥野隆史
副査	筑波大学教授 理学博士 佐々木博
副査	筑波大学助教授 理学博士 斎藤功
副査	筑波大学助教授 理学博士 田林明

論文の要旨

本研究は、わが国有数の沖合漁業根拠地であり、大量水揚地である銚子漁港を事例として、近代漁業の空間構造を明らかにすることを目的としている。近代漁業は漁港を核として、漁場と漁獲物の販路(市場)を結びつける統合体であって、空間構造の観点からみると、漁獲空間と水産物流通空間が漁港関連空間によって統合された空間という構造をもっている。篠原氏はこのような空間構造に着目し、それを形づくる諸要素の形態、機能および配置を分析し、各構成要素が漁業空間全体の中で、どのように空間的に構造化され、統合されているかを銚子漁港において明らかにしようとしている。それによって近代漁業の地域的性格を総合的に解明する方法を提示しようとした。その結果、次のことが明らかになった。

(1) 銚子の漁業空間は、漁獲関連空間、漁港関連空間および水産物流通空間という3つの下位空間で構成されている。漁獲関連空間はさらに下位の空間を2種類包含する。その第1は沖合漁場、銚子漁場およびここを根拠地として操業する漁船と漁業者からなる。第2は沿岸漁場、銚子漁港および近隣の漁港の漁船と漁業者からなる。漁港関連空間は、銚子漁港の第2漁船渠、第1漁船渠、川口外港およびそれぞれの周辺地区を中核とする。第2漁船渠とその周辺地区は沖合漁業の中核管理と鮮魚出荷の機能を持ち、マイワシとマサバを除く全魚種の漁獲関連空間と結びついている。第1漁船渠および川口外港とその周辺地区は、沖合水産物の大量水揚げを分担しており、それらの加工および冷凍冷蔵、沖合漁船員の供給といった機能を果している。この下位空間は、特にマイワシとマサバの漁獲関

連空間と結びついており、銚子漁港における水揚量の増大にもなって形成された。

(2) 水産物流通空間は、魚市場、水産加工会社、出荷を担当する漁業会社を中枢とし、鮮魚出荷圏と水産加工品の出荷圏、および原料魚集荷圏からなる。鮮魚出荷圏は第2漁船渠を中心とする下位漁港関連空間と結びついており、水産加工品の出荷圏および原料魚集荷圏は第1漁船渠および川口外港を中心とする漁港関連空間と関連している。

(3) このように、銚子の漁港空間には3つの下位空間が認められ、各下位空間にはさらに下位の空間を統合しており、それらにはそれぞれ空間を統合する中枢的、結節的施設がある。その漁業空間は東北地方から瀬戸内地方に及ぶが、その内部は数層の空間の立体的、階層的、結節的構造を形成している。この空間構造は、各々の空間を形づくる諸要素、つまり漁場の資源状況、漁船の形態、性能、編成、漁港施設、魚市場や水産加工工場、さらに水産会社、魚類と水産加工品の市場、輸送機関など数多く要素の一定の時期における水準に対応して、一定の状態を呈する。著者は銚子の漁場の空間構造の形成過程を分析することによってこの事実を明らかにした。

審 査 の 要 旨

漁業に関する地理学的研究は昭和初期以来、多くの業績が蓄積されてきた領域であるが、研究の多くは、漁業に関係する一つあるいは二、三の側面を論じたものであった。たとえば、漁撈活動の地域性に関する研究や漁村に関する研究が最も多く、漁業の企業的发展を支えた近代漁港の発展や魚市場の地域的関連などの分析も断片的に行われてきたが、漁業のもつ地域的特性の解明という地理学研究の課題には十分答えてこなかった。篠原氏は漁業の空間構造の視点からこの問題に取り組むことを試み、銚子の漁業を事例として具体的に総合的分析を試みた。この分析は、とくに水産物流通の空間構造の分析の点でさらに充実すべき点がなくはないが、高い水準の成果をおさめており、その方法に広い適用性があることが実証された。その克明な記載とともに、それは特筆に値することであり、本論文には高い評価を与えることができる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。